

アマモすくすくプロジェクト！

～学習会編～

深江ブループロジェクト活動組織は、小林小学校、大野木場小学校、深江小学校の5年生を対象に(児童 68 名)アマモについて学習会を開催しました。また、長崎大学のダイビングサークル(ISANA：勇魚)の4名の方が長崎の海の様子やウニ駆除の活動を紹介してくれました。

まず、深江町の海のことについて学びました。旬の魚や養殖している水産物について知っている児童が多くいました。

次に、アマモについて学習しました。アマモとは、浅瀬に生息する海草の一種です。小魚や甲殻類の棲みかになるだけでなく、海を綺麗にし、光合成により二酸化炭素を吸収して酸素を作ります。茎の部分をかじると、ほんのり甘さを感じることから「甘藻」と名前がつけました。また、別名「リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ(竜宮の乙姫の元結の切りはずし)」と言われています。アマモは、波の穏やかな内海や内湾の砂泥域で繁茂します。密生するアマモ場では、海水の流れが穏やかになります。アマモ場に産卵する魚介類も多く、生まれてからある程度の大きさに成長するまで生育することから、「海のゆりかご」と言われています。しかし、アマモの葉はジュゴン、アイゴ、ブダイ(草食魚)の餌になります。

現在、アマモ場を増やすことで二酸化炭素を吸収させ酸素を放出し、海の生き物が棲みやすい環境を作ろうと取り組んでいます。今回をきっかけに、子どもたちが積極的に海の環境保全に興味をもって参加してほしいと思います。

小林小学校の5年生



(深江町の漁業について説明中)



(ISANA：勇魚のみなさん)

大野木場小学校の5年生



(海藻?海草?クイズ)



(アマモカップに夢中の児童)

深江小学校の5年生



(真剣に説明を聞いている児童)



(海藻?海草?クイズ)